

週日の説教

金 大烈 神父 2009年2月12日(木)

《感謝の心で生きられれば幸せになれます》

今日の福音(マルコ7・24 - 30)では、シリア・フェニキア人の女性の話が読まれました。

聖書には、イエス様らしくない言い方をした箇所がいくつかあります。どうしてこのような言い方をしたのかよく分からないところもあります。その中の一つが、今日読まれた、「子ども達のパンを取って、子犬にやってはいけない」という部分です。言葉どおりならば、異邦人であるその女性は犬になってしまいます。愛であるイエス様がなぜそのような言い方をされたのか、それについては、学者達のいろいろな意見があります。

イエス様のところに集まる人は、ほとんどがユダヤ人でした。当時のユダヤ人の傲慢さはものすごいものでした。自分達だけが神様に選ばれた民族であると思い、異邦人のことは、存在価値のない、いわゆる犬のような存在だと思い、とても低いレベルのものとして見ていました。

ある日、異邦人である女性が現れて、イエス様の前にひれ伏し、自分の娘が悪霊に取りつかれているので、どうかその悪霊を追い出してくださいと懇切に願います。その女性の姿を見たイエス様は、傲慢さでいっぱいになっているユダヤ人をしかる目的でわざわざこの言葉を言ったのではないかと思います。

あなた達が、犬のように見ているこの女性でも、このような信仰を持っているではないか。あなた達ユダヤ人は傲慢に満たされ、あなた達が軽んじているこの異邦人の女性さえ持っている信仰を拒んでいる。だから気をつけなければならない。そういう意味ではないかと解釈してみました。

とにかく、イエス様はいつも人間の一番弱い部分について話をされます。"弱いのにそれを認めない心" "分からないまま通り過ぎてしまう心" のことをよくおっしゃっています。

この福音は、「神様に愛されるという信仰を持ちながら、知らないうちに傲慢さに陥っているのではないか」と警告をしているみ言葉ではないかと思ってみました。

では、ここで質問をします。神様から100円をもらった人と200円をもらった人がいます。どちらが幸せでしょうか。

"200円もらった人" と答えるのが、ふつうの人間の考え方です。しかし、今日の福音の女性をとおして、私たちは悟るべきではないかと思えます。彼女は、ユダヤ人ではなく、選ばれた民族の一員でもなく、異邦人として生まれました。しかしそれでも、娘は癒されたのです。

幸せになる条件は、100円もらったか、200円もらったかではありません。100円もらっても感謝する心が生じればその人は幸せです。200円ではなく、100万円もらったとしても感謝する心が生じなければ、その人は不幸です。

これがキリスト教の真理です。しかし、私たちはこのような罠によく陥ります。「あの人は100万円もらったのになぜ私は50万円しかもらえないのか」と思うってしまうのが私たちの弱いところではないでしょうか。

しかし、イエス様はいつもおっしゃっています。100円もらうことが損なことではないし、200円もらうことが得なことでもない。いくらもらったとしても感謝の気持ちで生きられるかどうか、が大切なのです。「感謝の気持ちで生きられればあなたは幸せになれる」というイエス様のみ言葉ではないかと思いました。

ありがとうございました。